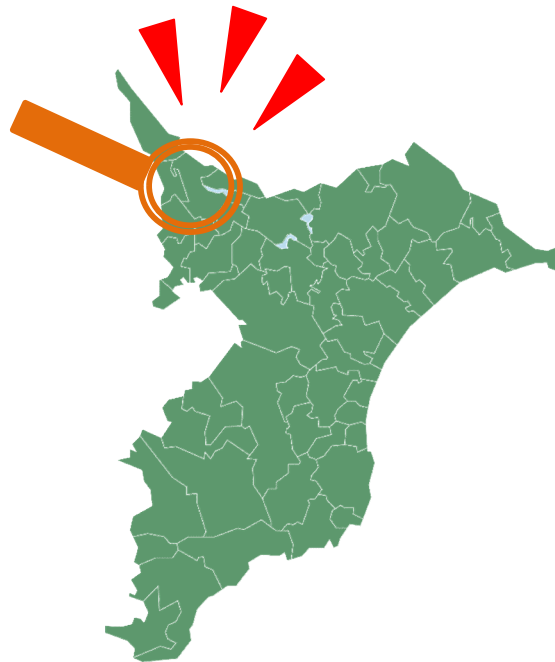


2025・11

# 柏の景気情報

令和7（2025）年11月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和7年11月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

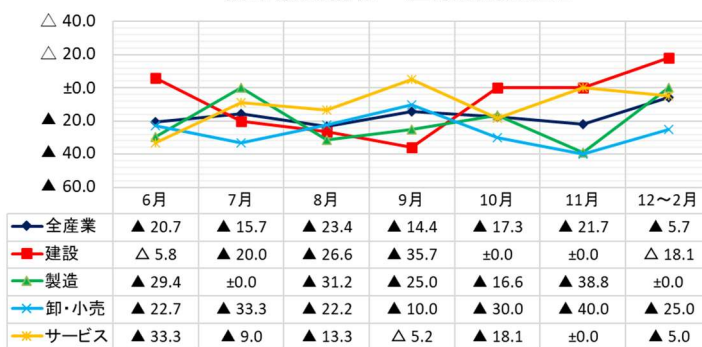
回答期間：令和7年11月21日～令和7年12月4日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数69

クリスマス・年末商戦で販売強化に動く一方、人手不足やコスト上昇、日中関係悪化への懸念も広がる

11月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲21.7（前月水準▲17.3）となりマイナス幅が4.4ポイント拡大した。

各業界、人手不足にコスト増と引き続き課題が山積。製造業では、一部売上が好調なところもあるが、未だ値上げ交渉は難航中。加えて日中関係の悪化による影響に先行きを不安視する声多数。サービス業では、人手不足による機会損失や外注委託の増加、賃上げ対応などが収益環境を厳しくする要因となっている。

柏の景気情報・産業別業況DI



## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「公共事業に関わる事業が堅調に続いており、当面好転が予想される。ただし、物価高に伴うコスト高が続いており、長期的な視点で慎重な取り組みが必要である。更なる生産性向上のため、DX化も取り入れた受注拡大への取り組みが課題である。また、社会課題対応としてGXについても独自性をもって取り組む必要性を感じている」（地質調査）「豊工事・豊縁バッグ・豊縁販売、すべて好調。ありがたい」（豊工事請負・豊製造販売）



製造業

「今月は採算の良い商品の売上が、昨年に比べ良かった。マークアップ率の高いものと低いものの差が大きくなってきている。卸商品よりも自社製品の値上げが難しい」（自動車・同附属品製造）「取引先の値上げ交渉は、先方もコスト増により双方難しい状況。設備の劣化でメンテナンス費用が増加」（その他の鉄鋼業）「今年度の前半戦は仕事が薄く、後半戦に集中している。補助金の影響であると考え」（その他の機械・同部品製造業）「トランプ関税が落ち着いてきたと思ったら、中国問題が浮上ってきて読みにくい状況にたってきた」（一般産業用機械・装置製造業）



卸・小売業

「11月前半は気温も高く、秋冬物の動きが極端に鈍く苦戦が続いたが、中旬になり、気温（最低気温）の低下が見られ、一部商品が動き出した。下旬に向けては、重衣料や羽毛布団などの冬準備品を売込んで12月のクリスマス商戦に繋げていきたい。業界全体としてディスカウント対策の傾向が強くなり、利幅を落としてでも売上確保に動いている企業が多い。自店もその流れに逆らうことは出来ず利益は縮小している。人件費の高騰は抑えられないが、水光熱費などの他の経費削減を進めて最終利益の確保に動いている」（大型小売）「相変わらず仕入れ値の上昇。特に飲食店は値上げすると客数が顕著に落ちる」（その他の各種商品小売業）



サービス業

「売上は伸びているものの、人手不足でエンジニアが足りないため、外注さん頼みになっている。賃上げへのプレッシャーが大きく、売上げの増加が利益に連動していない」（コンピュータソフトウェア開発）「人手不足による売上の頭打ち現象が続いている」（日本料理）「資材、建築費、広告費等が値上がりしている。全体に買い意欲は低い。売上も降下気味。賃貸のお客さんも低額物件の需要が出てきている」（不動産管理業）

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲21.7に対し、「CCI-LOBO」が▲17.9で、柏のほうがマイナス幅が3.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.7	 ± 0.0	 ▲ 38.8	 ▲ 40.0	 ± 0.0
CCI-LOBO	 ▲ 17.9	 ▲ 16.5	 ▲ 19.7	 ▲ 26.4	 ▲ 7.7
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.5	 27.2	 ▲ 55.5	 ▲ 20.0	 15.0
CCI-LOBO	 ▲ 3.7	 ▲ 6.5	 ▲ 3.5	 ▲ 7.8	 4.2
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.2	 9.0	 ▲ 50.0	 ▲ 30.0	 ± 0.0
CCI-LOBO	 ▲ 18.5	 ▲ 15.0	 ▲ 18.0	 ▲ 26.7	 ▲ 15.2
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 63.7	 ▲ 72.7	 ▲ 61.1	 ▲ 75.0	 ▲ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 63.1	 ▲ 66.7	 ▲ 58.8	 ▲ 67.8	 ▲ 62.1
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.1	 45.4	 16.6	 ± 0.0	 40.0
CCI-LOBO	 22.7	 43.0	 11.8	 17.1	 29.0
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 7.2	 9.0	 ▲ 11.1	 ▲ 10.0	 ▲ 10.0
CCI-LOBO	 ▲ 13.2	 ▲ 6.9	 ▲ 16.1	 ▲ 17.6	 ▲ 12.1

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測 (11月速報)

調査期間：2025年11月12日～18日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、消費マイン드의持ち直しで5か月改善

先行きは、期待感うかがえるも、課題多く慎重な見方

11月の全産業合計の業況DIは、▲17.9と前月比からプラス1.0ポイント。

建設業では、人手不足や最低賃金見直しに伴う労務費の上昇、円安伸長等による資材価格の高騰が足かせとなり、悪化した。一方、好調な観光需要を背景に、サービス業では、飲食店や旅館、観光施設で客数が増加し、改善した。また、小売業では、行楽シーズンの本格化により外出機会が増え、百貨店・総合スーパー等で売上が増加し、改善した。

労務費の上昇に加え、円安の伸長や生鮮品の価格高騰など、幅広い業種からコスト増に伴う採算悪化が聞かれ

ものの、高い水準での賃上げや行楽シーズンによる外出機会の増加などから、消費マインドは持ち直しつつある。

先行き見通しDIは、▲17.7と今月比からプラス0.2ポイント

年末に向けたイベントの増加により、消費マインドは回復傾向が見込まれる。ガソリン税の暫定税率廃止や電気・ガス代支援を含め、新内閣の政府への期待も散見される。

一方、労務費の上昇や円安の伸長等による仕入価格の上昇は継続することが見込まれ、先行きのコスト増が懸念される。また、日中関係の悪化に伴う中国人観光客の減少が不安視されるほか、全国各地のクマ被害による影響など、依然として課題は多く、先行きは慎重な見方となっている。

【建設業】  
「建築費高騰による販売

価格の上昇に加え、足もとの金利上昇に顧客の賃金増が追いついておらず、マイホーム需要は弱含んでいる」（一般工事業）

「人手不足が恒常化している中、スタッフの高齢化も進んでいるため、工事の生産性がどんどん低下している。新規採用に力を入れているが、最低賃金引き上げ分の収益確保が難しい」（建築工事業）

#### 【製造業】

「需要を踏まえて新たに開発した製品の売れ行きが好調。賃上げとともに、得意先への値上げを実施した」（パン・菓子製造業）

「足もとで円安が伸長しており、物価の一層の上昇が懸念される。新内閣の物価高対策等により、消費マインドが回復することを期待している」（繊維機械製造業）

#### 【卸売業】

「仕入先の値上げ対象品目数が減少しており、仕入価格の上昇に一服感がみられている。また、従業員の業務効率化

などを理由に、ホテル等の当社の冷凍カット野菜が評価されており、受注が増加している」（飲食料品卸売業）

「当社は輸入木材を使用した家具等を取り扱っているが、円安の伸長や物価高の影響で業況が一段と悪化している」（建築材料卸売業）

#### 【小売業】

「インバウンドも含め客数が増加している。プラインド品などの高価格帯の商品よりも化粧品などの消耗品の引き合いが強い」（百貨店）

「夏の暑さがおさまったと思ったら、すぐに寒さが来て冬のような気候になってしまった。秋が短く、急いで冬物を準備することになった」（身の回り品小売業）

#### 【サービス業】

「足もとではインバウンドを中心に客数が増加しているが、連日報道されているクマ被害が今後の集客の悪影響にならないか懸念している」（旅館）  
「インフルエンザの流行が例年より早く、それを理由とし

た予約キャンセルが足もとで見られるものの、年末年始に向けて前年より早くから予約が埋まっており、売上は好調（飲食店）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲16.8	▲15.2	▲18.6	▲23.5	▲22.4	▲8.5
7月	▲18.9	▲12.3	▲20.0	▲18.7	▲27.1	▲15.8
8月	▲18.8	▲13.4	▲19.7	▲26.6	▲27.0	▲11.6
9月	▲18.6	▲10.2	▲23.9	▲24.8	▲23.6	▲12.3
10月	▲18.9	▲13.5	▲21.0	▲24.2	▲29.3	▲10.0
11月	▲17.9	▲16.5	▲19.7	▲24.7	▲26.4	▲7.7
見通し	▲17.7	▲15.3	▲19.5	▲24.2	▲22.9	▲10.6

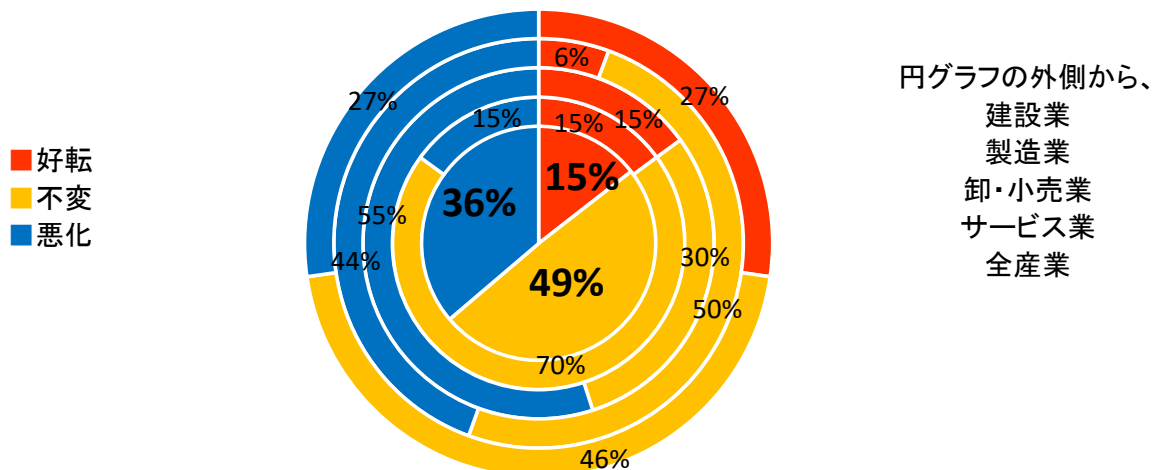


# 令和7年（2025年）11月の動向

## 【業況について】

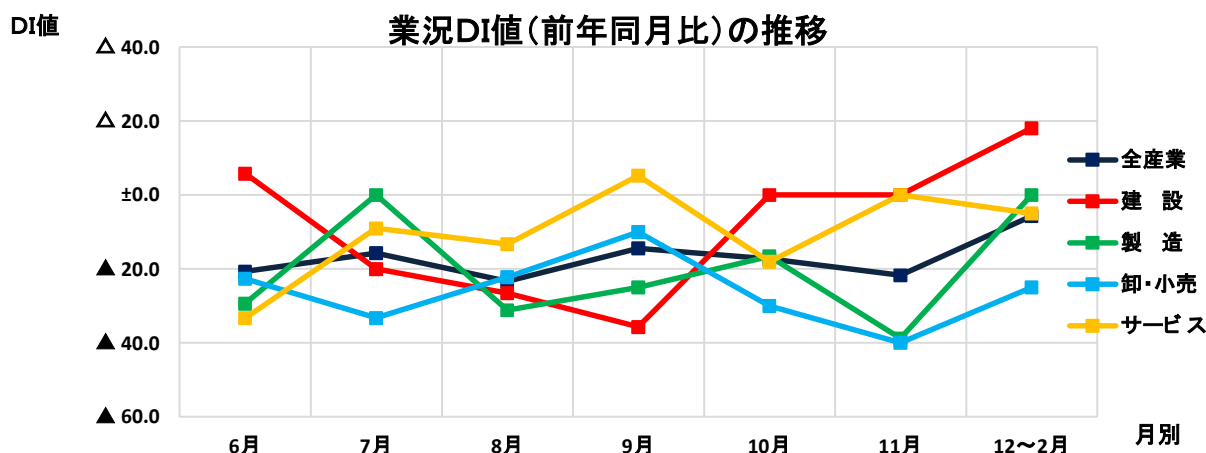
- 11月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲21.7（前月水準▲17.3）となり、マイナス幅が4.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（12月から2月）の先行き見通しについては、全産業では、▲5.7（前月水準▲9.3）となり、マイナス幅が3.6ポイント縮小した。

## 前年同月と比較した今月の業況について



## 業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

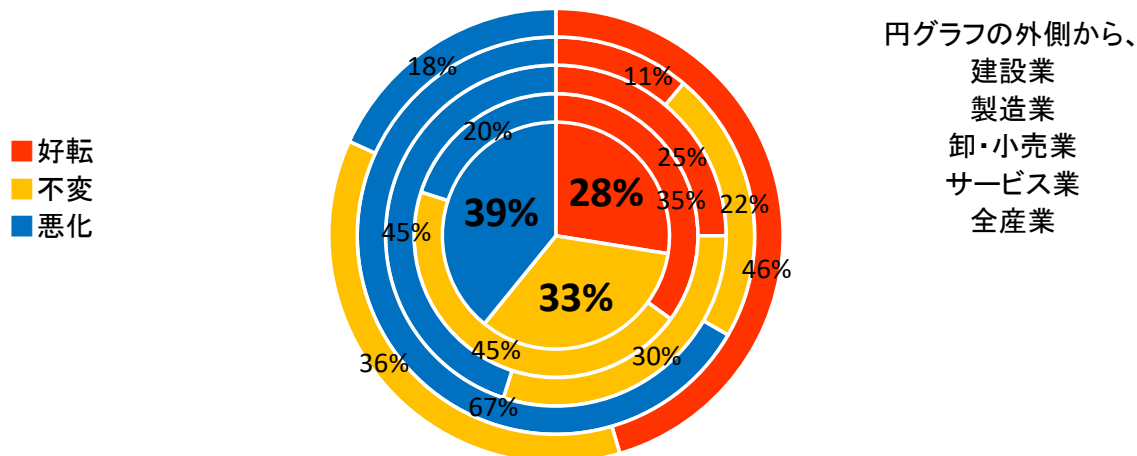
	令和7年						先行き見通し
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月 ( 11~1月 )
全産業	▲ 20.7	▲ 15.7	▲ 23.4	▲ 14.4	▲ 17.3	▲ 21.7	▲ 5.7 ( ▲ 9.3 )
建設	△ 5.8	▲ 20.0	▲ 26.6	▲ 35.7	±0.0	±0.0	△ 18.1 ( ▲ 13.3 )
製造	▲ 29.4	±0.0	▲ 31.2	▲ 25.0	▲ 16.6	▲ 38.8	±0.0 ( △ 5.5 )
卸・小売	▲ 22.7	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 25.0 ( ▲ 30.0 )
サービス	▲ 33.3	▲ 9.0	▲ 13.3	△ 5.2	▲ 18.1	±0.0	▲ 5.0 ( ±0.0 )



## 【売上について】

- 11月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.5 (前月水準▲16.0) となり、マイナス幅4.5ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.4 (前月水準▲5.3) となり、マイナス幅が3.9ポイント縮小した。

### 前年同月と比較した今月の売上について

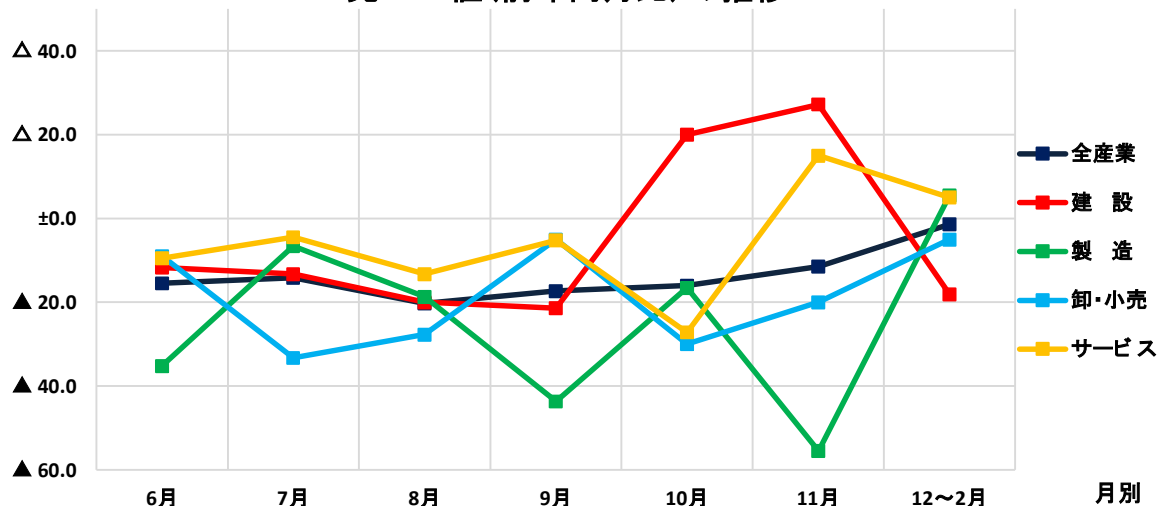


### 売上D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和7年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月	11~1月
全産業	▲15.5	▲14.2	▲20.3	▲17.3	▲16.0	▲11.5	▲1.4	▲5.3
建設	▲11.7	▲13.3	▲20.0	▲21.4	△20.0	△27.2	▲18.1	±0.0
製造	▲35.2	▲6.6	▲18.7	▲43.7	▲16.6	▲55.5	△5.5	△5.5
卸・小売	▲9.0	▲33.3	▲27.7	▲5.0	▲30.0	▲20.0	▲5.0	▲15.0
サービス	▲9.5	▲4.5	▲13.3	▲5.2	▲27.2	△15.0	△5.0	▲9.0

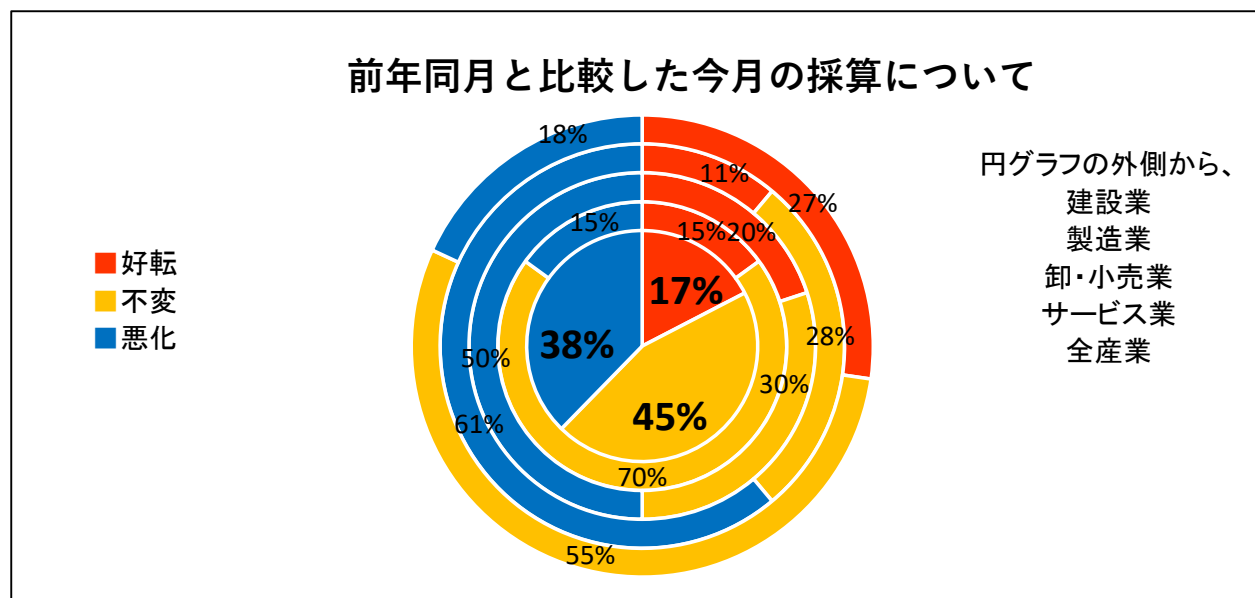
DI値

### 売上DI値(前年同月比)の推移



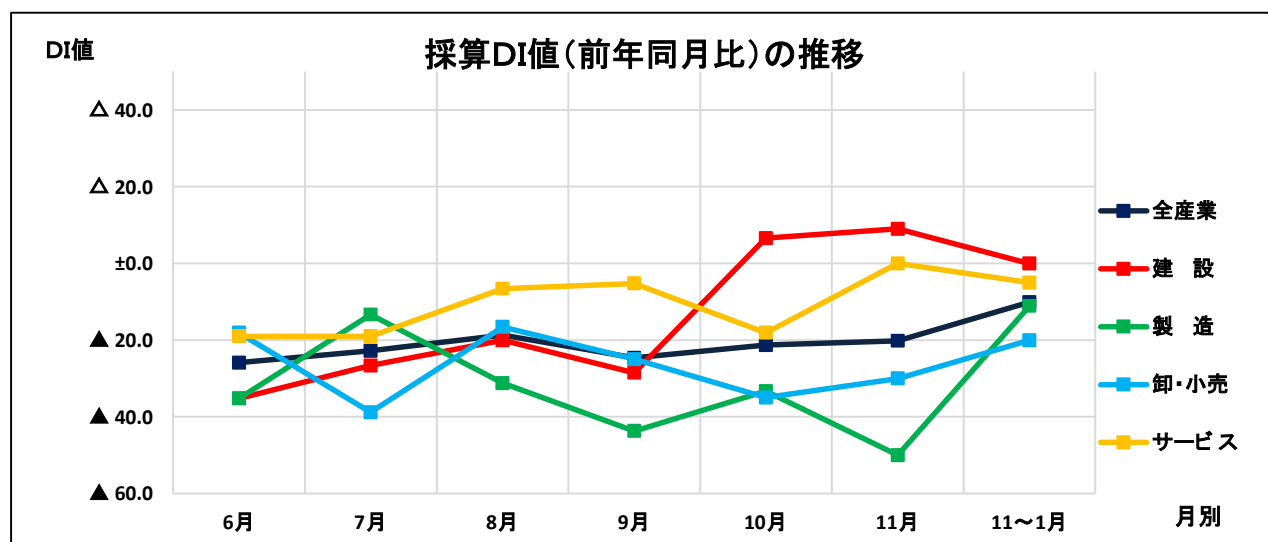
## 【採算について】

- 11月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.2 (前月水準▲21.3) となり、マイナス幅が1.1ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.1 (前月水準▲12.0) であり、マイナス幅が1.9ポイント縮小する見通しである。



採算D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

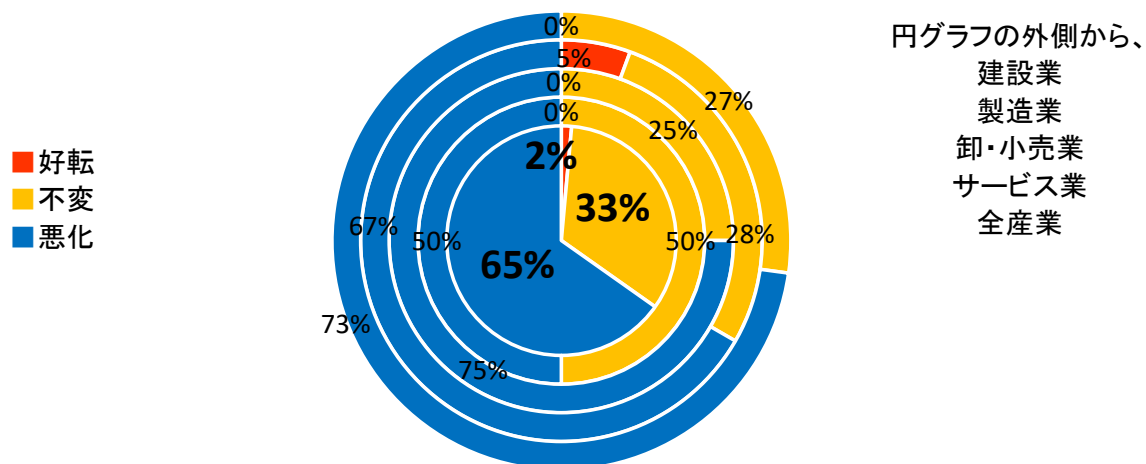
	令和7年						先行き見通し	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	11~1月	( 11~1月 )
全産業	▲ 25.9	▲ 22.8	▲ 18.7	▲ 24.6	▲ 21.3	▲ 20.2	▲ 10.1 (	▲ 12.0 )
建 設	▲ 35.2	▲ 26.6	▲ 20.0	▲ 28.5	△ 6.6	△ 9.0	±0.0 (	▲ 6.6 )
製 造	▲ 35.2	▲ 13.3	▲ 31.2	▲ 43.7	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 11.1 (	▲ 11.1 )
卸・小売	▲ 18.1	▲ 38.8	▲ 16.6	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 20.0 (	▲ 30.0 )
サービ ス	▲ 19.0	▲ 19.0	▲ 6.6	▲ 5.2	▲ 18.1	±0.0	▲ 5.0 (	±0.0 )



## 【仕入単価について】

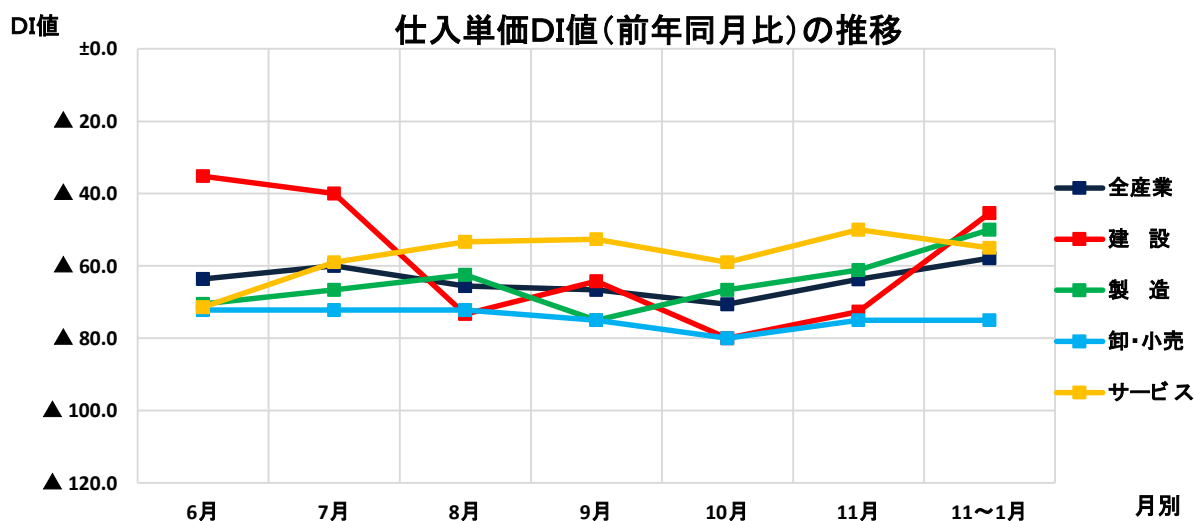
- 11月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲63.7 (前月水準▲70.6) となり、マイナス幅6.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲57.9 (前月水準 ▲54.6) となり、マイナス幅が3.3ポイント拡大する見通しである。

### 前年同月と比較した今月の仕入単価について



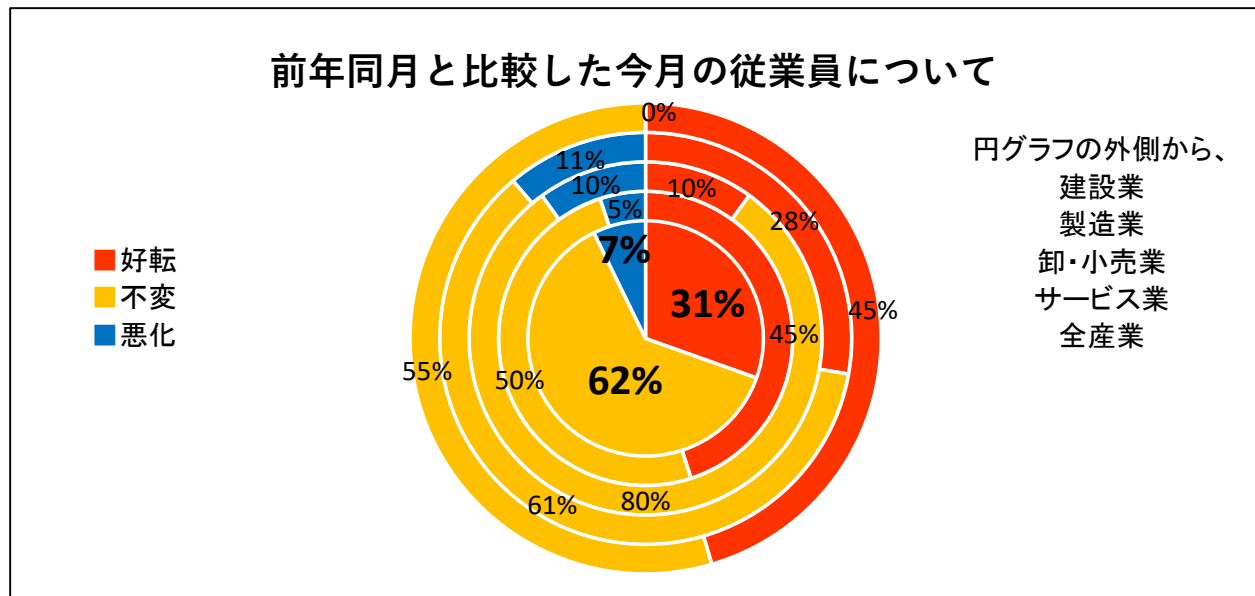
### 仕入単価D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和7年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し	
							11~1月 ( )	11~1月 ( )
全産業	▲63.6	▲60.0	▲65.6	▲66.6	▲70.6	▲63.7	▲57.9 ( )	▲54.6 ( )
建設	▲35.2	▲40.0	▲73.3	▲64.2	▲80.0	▲72.7	▲45.4 ( )	▲66.6 ( )
製造	▲70.5	▲66.6	▲62.5	▲75.0	▲66.6	▲61.1	▲50.0 ( )	▲38.8 ( )
卸・小売	▲72.2	▲72.2	▲72.2	▲75.0	▲80.0	▲75.0	▲75.0 ( )	▲70.0 ( )
サービス	▲71.4	▲59.0	▲53.3	▲52.6	▲59.0	▲50.0	▲55.0 ( )	▲45.4 ( )



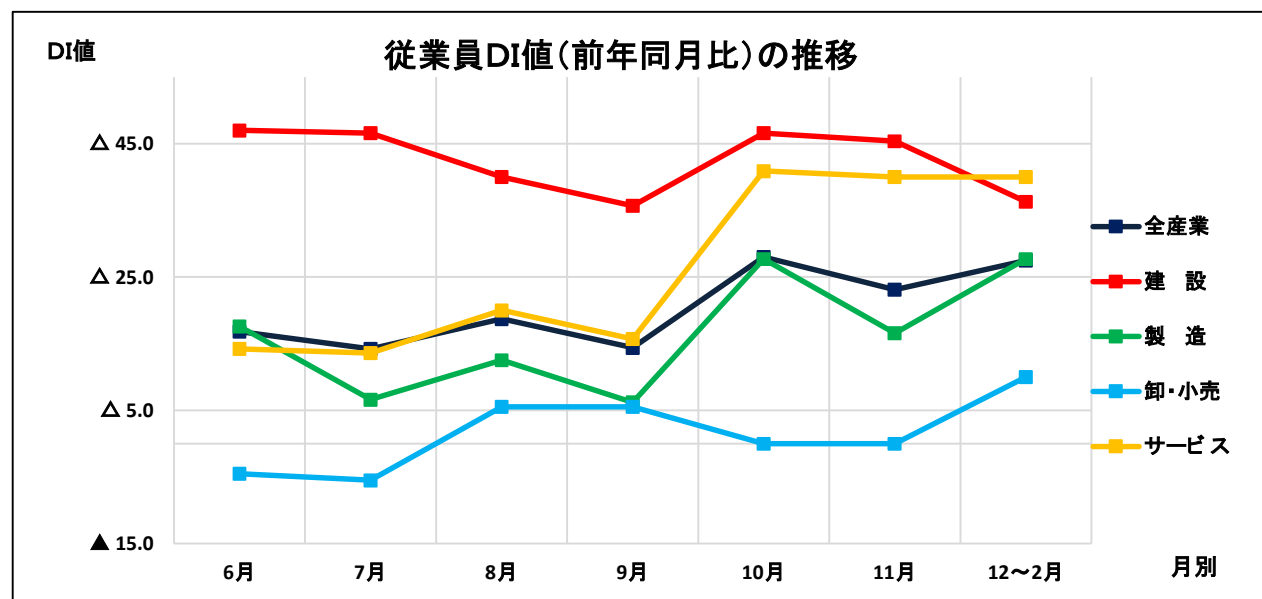
## 【従業員について】

- 11月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△23.1（前月水準△28.0）となり、プラス幅が4.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（12月から2月）の先行き見通しについては、全産業では、△27.5（前月水準△29.3）となり、プラス幅1.8ポイント縮小する見通しである。



従業員D I 値（前年同月比）の推移 ※DI=「過剰」の回答割合－「不足」の回答割合

	令和7年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し	
							12～2月	（ 11～1月 ）
全産業	△ 16.8	△ 14.2	△ 18.7	△ 14.4	△ 28.0	△ 23.1	△ 27.5	（ △ 29.3 ）
建 設	△ 47.0	△ 46.6	△ 40.0	△ 35.7	△ 46.6	△ 45.4	△ 36.3	（ △ 53.3 ）
製 造	△ 17.6	△ 6.6	△ 12.5	△ 6.2	△ 27.7	△ 16.6	△ 27.7	（ △ 27.7 ）
卸・小売	▲ 4.5	▲ 5.5	△ 5.5	△ 5.5	±0.0	±0.0	△ 10.0	（ ±0.0 ）
サービ ス	△ 14.2	△ 13.6	△ 20.0	△ 15.7	△ 40.9	△ 40.0	△ 40.0	（ △ 40.9 ）

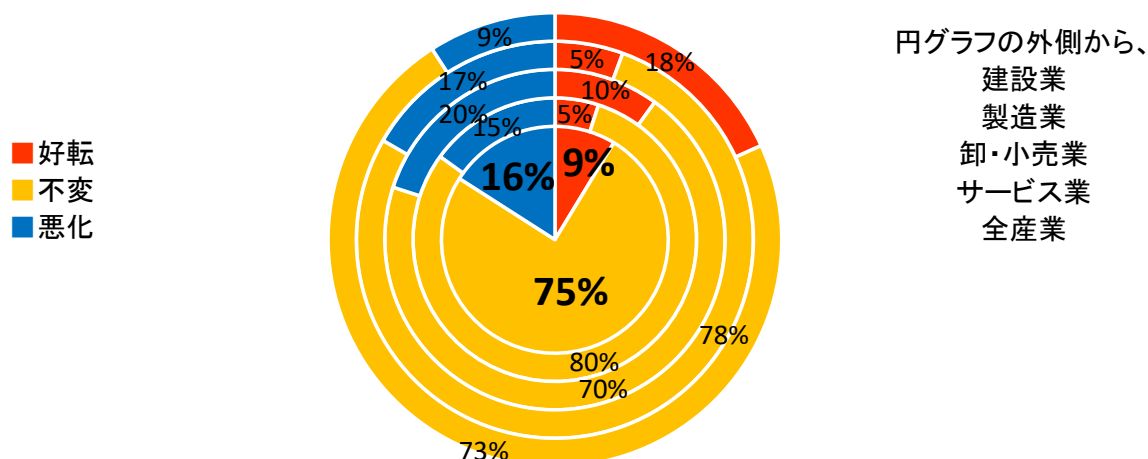


## 【資金繰りについて】

○ 11月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7. 2 (前月水準▲9. 3) となり、マイナス幅が2. 1ポイント縮小した。

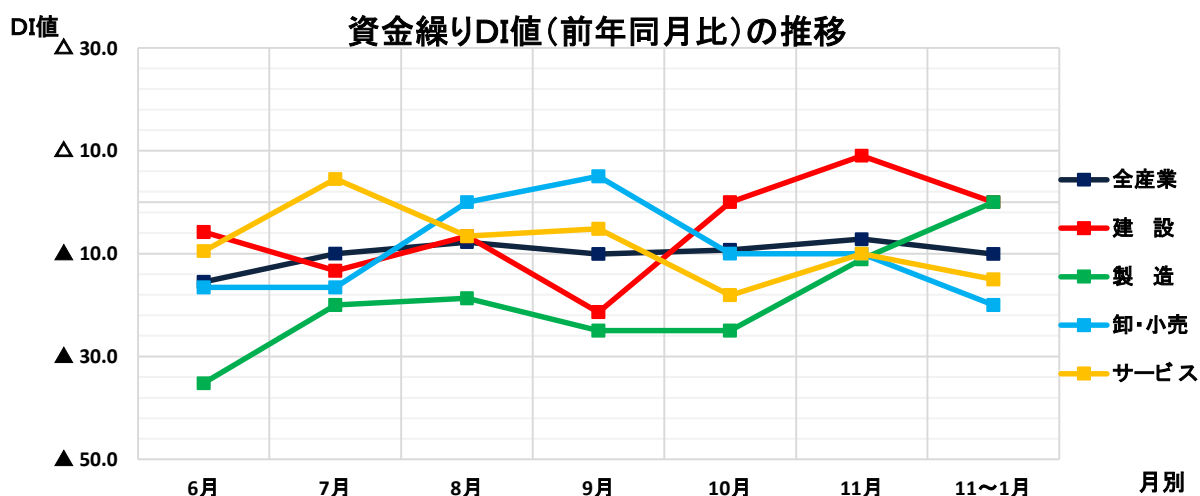
○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10. 1 (前月水準 ▲10. 6) となり、マイナス幅が0. 5ポイント縮小する見通しである。

### 前年同月と比較した今月の資金繰りについて



### 資金繰りD I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し	
							11~1月	( 11~1月 )
全産業	▲ 15.5	▲ 10.0	▲ 7.8	▲ 10.1	▲ 9.3	▲ 7.2	▲ 10.1	( ▲ 10.6 )
建 設	▲ 5.8	▲ 13.3	▲ 6.6	▲ 21.4	±0.0	△ 9.0	±0.0	( ▲ 26.6 )
製 造	▲ 35.2	▲ 20.0	▲ 18.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 11.1	±0.0	( ▲ 6.2 )
卸・小売	▲ 16.6	▲ 16.6	±0.0	△ 5.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 20.0	( ▲ 15.0 )
サービ ス	▲ 9.5	△ 4.5	▲ 6.6	▲ 5.2	▲ 18.1	▲ 10.0	▲ 15.0	( ▲ 4.5 )



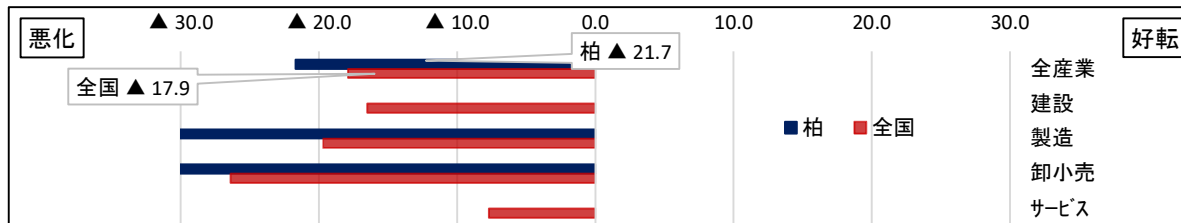


# 全国（CCI-LOBO）との比較

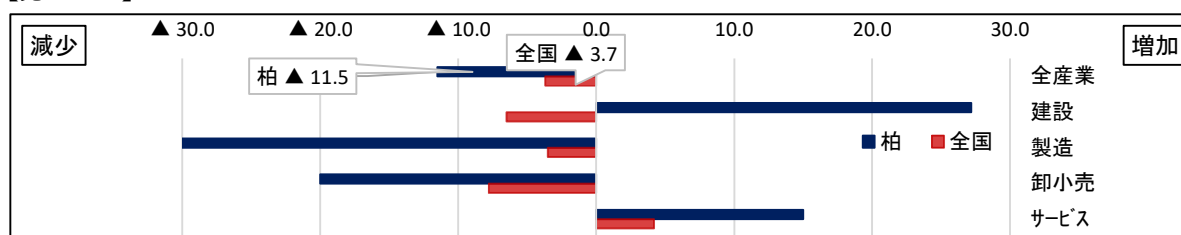
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

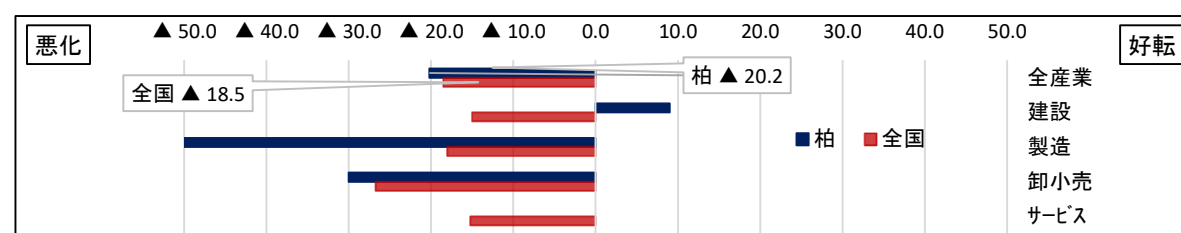
## 【業況DI】



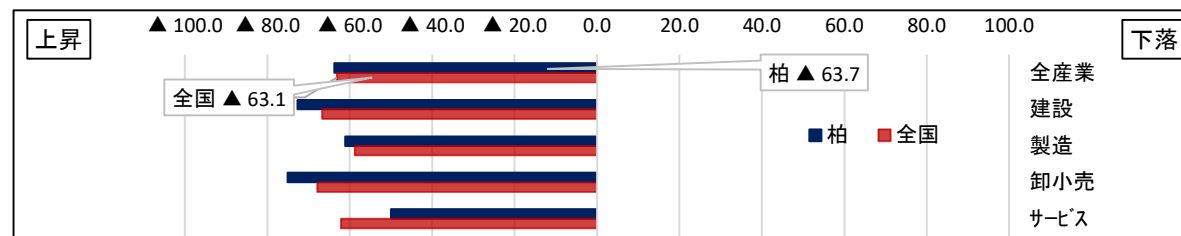
## 【売上DI】



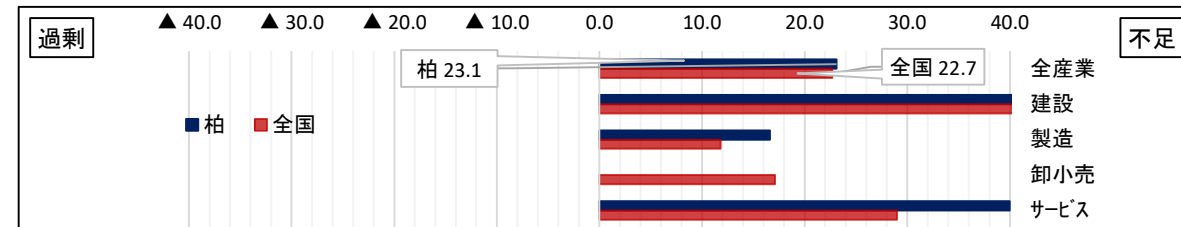
## 【採算DI】



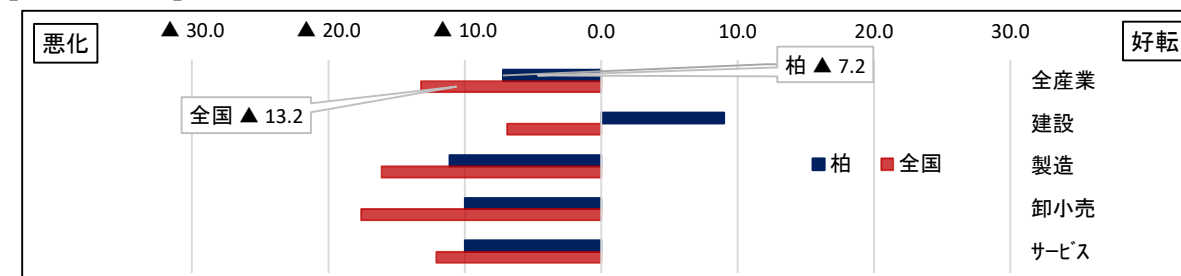
## 【仕入単価DI】



## 【従業員DI】



## 【資金繰りDI】



## 【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	畳工事・畳縁バッグ・畳縁販売、すべて好調。ありがたいです。	畳工事請負・畳製造販売業
	公共事業に関わる事業が堅調に続いており、当面好転が予想される。ただし、物価高に伴うコスト高が続いており、長期的な視点で慎重な取り組みが必要である。更なる生産性向上のため、DX化も取り入れた受注拡大への取り組みが課題である。また、社会課題対応としてGXについても独自性をもって取り組む必要性を感じている。	地質調査・地質コンサルタント
製造業	今年度は前半戦は仕事が薄く後半戦に集中している。補助金の影響であると思われる。	その他の機械・同部品製造業
	化粧品容器の受注に買う服量が出てきたが、ここに来て日中関係悪化でインバウンドに陰りが見え始め、先行きは一気に見通せなくなった	プラスチック加工
	弊社においては、輸出が増えているため業績が良くなっています。	織物業
	今月は、採算の良い商品の売上が、昨年に比べ良かった。マークアップ率の高いものと低いものの差が大きくなってきている。卸商品よりも自社製品の値上げが難しい。	自動車・同附属品製造業
	取引先との値上げ交渉は、先方もコスト増により双方難しい状況 設備の劣化でメンテナンス費用が増	その他の鉄鋼業
卸・小売業	トランプ関税が落ち着いてきたと思ったら、中国問題が浮上してきて先行きが読みにくい状況になってきた。	一般産業用機械・装置製造業
	11月前半は気温も高く、秋冬物の動きが極端に鈍く苦戦が続いた。中旬になり、気温(最低気温)の低下が見られ、衣料品では子供服及びインナー、食品ではおでん商材、ヘルス&ビューティでは風邪薬などが動き出した。下旬に向けては、重衣料や羽毛布団などの冬準備品を売込んで12月のクリスマス商戦に繋げていきたい。業界全体としてディスカウント対策の傾向が強く、利幅を落としてでも売上確保に動いている企業が多い。自店もその流れに逆らうことは出来ずに利益は縮小している。人件費の高騰は抑えられないが、水光熱費などの他の経費削減を進めて最終利益の確保に動いている。	大型小売店
サ	相変わらず仕入れ値の上昇。特に飲食店は値上げすると客数が顕著に落ちる。	その他の各種商品小売業
	資材、建築費、広告費等が値上がりしている。全体に買い意欲は低い。売上も降下気味。賃貸のお客さんも低額物件の需要が出てきている。	不動産管理業
	対面販売による国内旅行の取扱は減少傾向にある。万博も終わり、今後は沖縄ジャングルリアに期待したいが先行き不透明。海外旅行は徐々にではあるが回復傾向にあり、大リーグ人気にあやかり、ドジャース観戦ツアーなど、高価格ツアー販売に力を入れたい、そのために、現地研修を積極的にしている。	旅行
	人手不足による売上の頭打ち現象が続いている	日本料理

## 【業種別】 業界内トピックス

<b>ビ ス 業</b>	大学受験は年内に推薦で決まってしまうことが多くなり、12月から2月までの売上が年々下がってきている。入試制度の変化に応じた収益モデルを再構築する必要に駆られている。	学習塾
	高市政権も今後に期待中	不動産賃貸・管理業
	売上は伸びているものの、人手不足でエンジニアが足りないので、外注さん頼みになっています。 賃上げへのプレッシャーが大きく、売上げの増加が利益に連動していません。	コンピュータソフトウェア開発
	寒さが厳しくなるラニーニャ現象が収束するかどうか気がかり。求人に対する反応がここ数ヶ月で極端に悪くなっている。	ゴルフ練習場

## 調査要領

回答期間

令和7年11月21日 ～ 令和7年12月4日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	69	39.9%
建設	38	11	28.9%
製造	44	18	40.9%
卸・小売	46	20	43.5%
サービス	45	20	44.4%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

### ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

### ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 